

旧友たちとの再会に向け  
今年も実行委員会が  
式をプロデュースしました

▲パンフレット裏表紙

▼パンフレット表紙

実行委員として式の企画・運営を実施した吉次妃詩さんにお話を伺いました。

「今回特にこだわったのは、多くの先生からコメントをもらった動画です。先生同士で声を掛け合ってください、たくさんのお祝いコメントをいただきました。動画で中学時代を思い出してもらいたいと一生懸命作ったので、喜んでもらえてよかったです。

また、パンフレットの書は中央校に通っていた同級生に協力してもらい、式典の前日には会場入口にフォトスポットとして和傘を飾り付けました。当日みんなが楽しそうに撮影してくれて、本当に嬉しく思いました」。



実行委員会のみなさん

（右から）  
吉次 妃詩さん  
山口 晴士さん  
船山 弥優さん  
陣内 佑亮さん  
緒方 太一さん  
岸川 結さん



中央校区

おがた たいち  
緒方 太一さん

今年のパンフレットの裏表紙の言葉は「仁に里るを美と為す」にしました。意味は、人生を笑って楽しく生きるためには人を思いやる心を忘れてはいけないということです。

新型コロナや戦争などで世の中が混乱し、人との距離が遠く感じてしまう今こそ、人を思いやる心が大切だと思います。この心を忘れずに、人を思いやり、支え合い、助け合いながら、今までお世話になった両親や友人、そして地元多久に感謝しながら、恩返しができるよう日々精進していきます。



西溪校区

じんのうち ゆうすけ  
陣内 佑亮さん

自然豊かな多久市でさまざまな経験をしたことで、ここまで成長できました。優しく、時に厳しく指導してくださった先生や家族には、本当に感謝しています。

現在私は、工学部でエンジニアになるため日々勉学に励んでいます。将来は環境に優しい車を作り、多久をはじめとした世界中の自然環境を守る手助けがしたいです。

生まれ育った多久市に恩返しができるようさらに努力していきます。これからも温かい目でご指導ご鞭撻いただきますようよろしくお願いします。



東部校区

やまぐち はると  
山口 晴士さん

私たちが緑あふれる多久市に生まれ、今日こうして二十歳のつどいを迎えられたのは、20年間愛情いっぱい育ててくれた、数え上げられないほどの多くのみなさんの支えによるものだと思心から感謝しています。新型コロナの影響を大きく受けた大学生活は、思い描いていたとおりとはいきません。しかし、このつらい時代を乗り越えることで、今までのやり方に捉われない新しい考え方が身に付くと思います。

新しい時代で私たちが先頭に立ち、協力しながら生まれ育った多久市を元気にしていきます。